国労岡山

2025年1月1日　No.5608

発行者　小林靖浩　編集者　小林裕二郎

春闘

国労運動に自信と確信を持ち、力を合わせともに前に進んでいこう！

執行委員長　小林靖浩

組合員ならびにご家族のみなさま、新年あけましておめでとうございます。みなさまにおかれましては健やかに新春をお迎えのことお慶び申し上げます。年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

私たち国労に課せられた課題は山積していますが、なかでも地域の足であるローカル線をめぐる動きは、今まさに大きな節目を迎えています。ＪＲ西日本はコロナ禍の減収に乗じて、公共交通の役割を放棄するかのように「存続困難」をアピールしてきました。このような中、国主導で存廃を含めた公共交通の在り方を議論する「再構築協議会」制度に基づき、芸備線（備中神代～備後庄原）を対象に協議会が設置をされ、昨年３月に初会合が開催されるなど具体的に動き始めました。この協議会は「３年を目途に存廃の結論を得る」としているように、今後、国主導による廃止をも視野に入れた動きがスピード感を増して活発化することは間違いありません。

国鉄の「分割・民営」化によって国民の財産であった鉄道を引き継いだＪＲには公共交通を守るという社会的責務があります。同時に、「分割・民営化してもローカル線はなくならない」と当時の政府自民党は大々的に宣伝し、国策として分割・民営化を断行した国の責任は重大であり、行司的調整役などという傍観者的な姿勢ではなく、主体的に鉄道ネットワークの持つ社会的価値や役割を認識し、ローカル線の維持と利便性を図るために積極的役割を果たすことが求められています。

地方本部としても、鉄路を守るため引き続いて現状の中で出来得ることをみなさんと一緒にとりくむとともに、駅の無人化・窓口閉鎖、減便、ワンマン化など安全・サービス切り捨てに反対し、安全、安心して利用できる鉄道の確立に向けて奮闘していきたいと考えています。

組織の強化・拡大の取り組みは、私たちにとって喫緊の重要な運動の柱です。この間岡山地方本部として「動きなくして拡大なし」を合言葉に取り組んできました。いろいろ工夫する中から、他労組の仲間との関わる場を持ち、粘り強く、そして繰り返し国労の存在をアピールしていきましょう。その積み重ねによって、お互いに喜び合える日を迎えたいと思います。

25春闘はすでに始動しています。コロナ禍を背景とした賃金抑制と相次ぐ物価上昇で働くものの生活は厳しい状況に追いやられています。一方、業種や企業ごとの差はあるものの企業がもつ現預金は増え続け、内部留保は６００兆円を超え１２年連続で過去最高を更新しています。その意味では、25春闘において物価上昇分を補うだけでなく、更なる生活向上を目指すための春闘にするために奮闘していかなくてはなりません。今こそ労働組合の存在意義が問われています。

私たちを取り巻く状況は厳しい中にありますが、私たちが今日まで歩んできた国労運動に自信と確信を持ち、地方本部運動を全組合員の力を合わせ前に進めていく、その決意をあらためて申しあげるとともに組合員・家族の健康とご多幸を祈念し、新年のご挨拶と致します。ともに頑張っていきましょう！

今年もよろしくお願いします

地本役職員

執行委員長　小林靖浩
執行副委員長　勝田哲也
書記長　青山准三
執行委員　小林裕二郎
　　藤江一成
第一支部委員長　定広文彦
第三支部委員長　仁科達也
会計監査　西原浩
　　岡本岩夫
書記　古賀由惠

国鉄労働組合岡山地方本部　086-233-0511　メールアドレス　kokuro-okayama@nyc.odn.ne.jp